

152
6
547

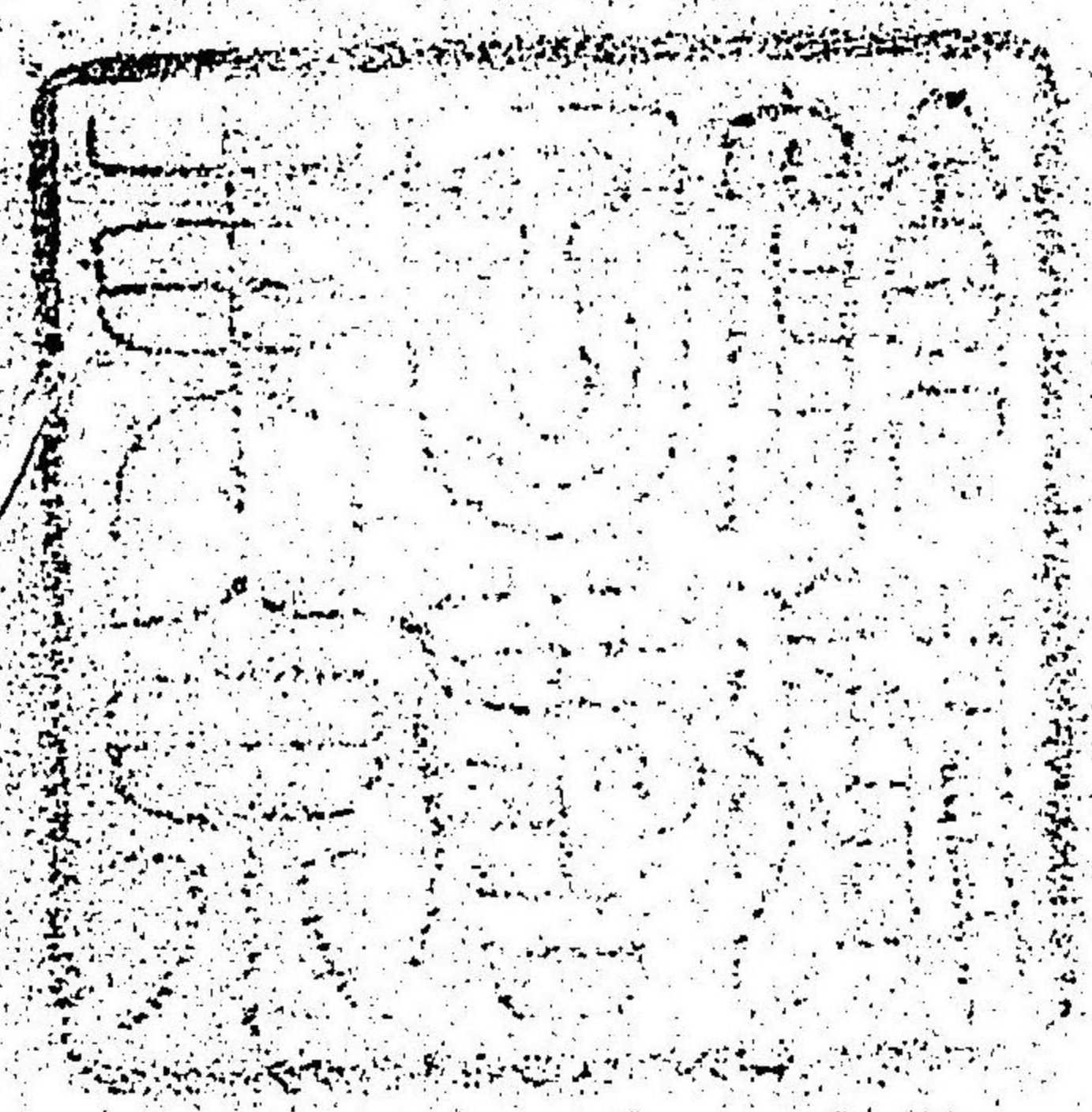
信
仰
問
答
一

森本介石編纂

大坂印行

明治十八年一月

福音社



第50
966



此小冊子ノ元來 禮試驗者トシテ必覺ノ爲メ記シタリ其後人ノ需ニ應フ
下ナレリ聖書ノ引照ハ畧シタレモ蓋シ聖書ニ憑據スルモ

此小冊子ノ實ニ 蓋サトル所欠ケタル所多キハ記者固ヨリ之ヲ知ル只ダ教
加テ教ヘ讀ムモノハ之ニ加ヘテ聞キ且ツ者ヘ給ハンコナ

一聖書ハ解シ難ク 說教ヲ聞キ雜誌ヲ讀ムモ手足ヲ捉テ大象ヲ評スルノ憾ア
レバ何トア早ク一先ツキリスト教信仰ノ全局ヲ一覽セント欲スル人アリ

此書或ハソノ需ノ一部ニ應ズベキカ
一信仰若キモノ信仰ノ箇條ト順序ト及ビ其理由ヲ問ハル、キ一時或ハ窮ス
ル事無キニ非ズモシ豫メ此書ヲ記シ置カバ頗ル爲ニナルコアルベキ與

容膝堂主人誌

信仰問答目録

第一章 眞神の事

第二章 聖書の事

第三章 イエスキリストの事

第四章 罪の事

第五章 救道の事

第六章 靈魂の事

第七章 信仰の事

一

七

十二

十四

十八

廿五

廿九

信仰問答

第一章

第一問 眞神といふ如何なる神を云ふや

答第一 眞神といふの金銀木石をもて人の造りたる神は非ず却て金銀木石日月星辰鳥獸人類その外目に見ゆるもの目に見へざるもの等總ての物を創造り給ひざる靈妙なる全智全能の造物主あり故に眞神は西洋の神にして又日本の神なり天の神なれ又地の神あり我等萬國の人が今日活て動き且つ働くことをうるは皆此神の力と恵と依るなり又彼と宇宙萬物の主宰なれ人の手にて造りたる小き殿に住み玉は又總ての物皆此の神の物なれば供物をさえて媚びらるる神に非ず靈と眞を以て拜すべき獨立絶對活ける唯一の眞神なり

答第二 又眞神はその性仁愛と慈悲と矜恤と容忍とに富み玉へを父が子を愛する如く我等を愛し玉ふと雖ども又聖く義く且つ善なればかの偶像の

如く貪慾の所汚穢の願非禮の舉動を受々玉の老又彼の在さる處なれば何れの處ふても拜すべく知り玉はざる處あければ何事をも隠すべからず能はざる事あつたれを何事をも任し奉るべきあり

第二問 眞神のその始め如何よきて出来まや又何日まで存在し玉ふや

答 神は始なく又終なしもし始終あれば則ち獨立全能の神と云ふべからば

第三問 物必ず始あるべきか始なしと云へるの如何

答 人も老此よ一の物を見を則ち必らず無始の物あるべしと悟らざるべからば何となれば物と更無き所より出る理由なし零と零と相合するも矢張零よきて一物の數をも出そ能とせ無と無と如何はと集るも同く無なり故に無始の物あるよあらざる以上一物も此世に現在するの理由あければなり

第四問 目よも見へる耳よも聞へる手よも觸る能はざる靈妙なる神を如何

よきて存在し玉ふと信ぜるや

答第一 その理由固より多しといふその二三を擧て云はんは先第一神を知る人の心の固有性なり人の己れの内と己れの外とあふしぎなるものおぼさよみて神をささるのみあらば喜悅の時おの感謝の心を起し危難の時お祈禱の念を生ぜ時お觸れ事お應トて心底自然に神を認むるものなり人の心の存する以上の世界中如何お處變り時異なるも神を慕ふれ思念絶てなくあることなきを視て知るべし

答第二 萬物よ意匠の含みあるを觀て神の存在し玉ふことを知るなり此れ最も強き證據の一善く天地の有様を視よ工夫よ工夫を込て造りたるよ非ざるのなし四季の循環晝夜の別山川草木の規則より禽獸蟲魚の生息化育よ至る迄皆一定の道の備りて互に相釘合ふ有様大智大能の工夫よ成れりよより外思をこれ仰ぎて天を觀よ太陽の引力ならんり地球忽ち碎け

去るべし諸星の引力ならんか大陽亦た獨り持ち難き百萬無数の衆星が相約合て大空を運る如きの妙用誰の工夫ぞや伏て地を觀よ雨露の爲に草木長ト草木の爲は禽獸活く鳥に翼われを必き飛ぶの空氣あり魚に鱗われを必き泳ぐ水あり物の美としきも目あければ見へき目あるも光なければ無用なり美物あり目あり光あるも直覺心なきときその美を知る能はざる然るも皆一々工夫具われり故に曰く星辰を造りしもの日月を造りしものなり日月を造りしもの地球と造りしものなり地球を造りしもの地球上の萬物を造りしものよして是れ神の唯一なる証なり又宇宙の意匠あると太智大能の心ある證みえて即ち眞神の存在し玉ふことを證しあり猶建家を見て大工のあるを信ト時計を見て時計司のあると信するが如し

答第三 人心は法律ありて常に善と爲し惡とあるべからざる善をなせざる賞あり惡となせざる罰あることを報せ故に善をなせし心快く惡となせば心は懼

れあり誰か此の法律を造りて我心にとさしや誰が賞罰と司る者なるや法律を造り賞罰を司るの我等自己は非をばして我より上よ立て我等を支配するもれ即ち眞神の相違なきあり

答第四 此くて眞神の存在し玉ふ證據とその造り玉ふたる萬物と人の心とみ由り既に分明なるが上よ神の言即ち聖書ありて逾々明かき證據と固うせり(十一問答を見よ)

答第五 已に神は從ひそれ心は清めを受けたるもの神と交はることを許さるゝが故に心よて神を見るよしを得るあり又常は聖靈は感化と祈禱の答を得て益々神に近よることと得信仰逾々厚ければ神を見ること逾々明かあり

第五問 三位一体を問ふ

答 三位一体といふ父と子と聖靈の此三ツと合せて獨一の神となることを云

ふあり

第六問 三ツを合せて一ツとなる理を問ふ

答 神の固より一なりかの父子聖靈の實體は於て別々れるのみ非ず但だその働の異なるより名義上はあはれて異なるあり(但し此は是れ神學上一種の議論のみとしるべし)

第七問 父の働さ何ぞや

答 父の働さの天地萬物を主宰し死生存亡賞罰を司どり玉ふことあり凡そ一般に神と云へると父の神を指せるなり

第八問 子の働さ何ぞや

答 子の働さの人間となり此世は降り十字架を釘られて人の罪は贖をさし昇天し玉ひてよりこの世の末までも公會の主となり我儕を助け導き玉ふことなり

第九問 聖靈の働さ何ぞや

答 聖靈の働さの人間が神に背き罪を犯せることと救主キリストを信ずべき事と人お教へ之を信仰と従順は勵まし信じたる者お心お平和と喜と愛と興へ且つ常は教へ且慰め又それ弱さと助けて父に神に祈り玉ふ事なり

第二章

第十問 聖書を問ふ

答 聖書は二部あり一部を舊約聖書と云ひ一部を新約聖書と云ふ舊約聖書はキリスト降世前一千有余年の間お於て種々人の記したる書と集合せたるものなり其卷數三十九新約聖書はキリストイエスの言行使徒の言行及び聖靈は由りて示されし教を記したるものなり記者多く直接おイエスに從ひ實に當時の事柄を目撃したるものあり卷數二十七

第十一問 何故舊約書と云ふや

答 眞神がモーセとキリストを以て人間に誓約し玉ひしまと記きたる書なればなり舊約の人もしモーセより授け玉ひし十誡と他の教訓と守らば主の必ず此世に繁榮ならしめ後にお救主と降して之を救ひ玉ふべしの誓約なり新約の誰おても其罪を悔改して救主キリストを信するもの必ず其罪赦され清められ天にお於て永遠無究の福祉を繼がしむべしとの誓約なり

第十二問 如何なる証據およりて聖書と眞神の默示およりて記きたるものと信するや

答第一 舊新両約書と一千五百年余れ星霜を経て記るされ時換り記者異なりと雖どもその教ゆる處一人の心より出でたる如く一も矛盾抵牾する事なく創世記の始より默示録の終迄の云ふところ一意貫通す天下他も此

の如き書あらざるなり又あるべき様なきなり是れ千有余年の間も變らざる神は默示に依るに証なり

答第二 記者中王あり學者あり智者あれども又農夫も漁夫もあるなり然るに書中尤も濫奥なるも却て漁者の手も成れり例へば約翰傳默示録に如きは是なり神は默示に依らざる以上と決して出來がたきなり

答第三 舊約書なる始初の書と今より三千四百年前記され新約終末の書とても今より千八百年前の古昔に記るされたるものあれば世未だ開けず學術明かならず世界の交通狭き時の事なり又聖書とひとり道徳上の事を記るそのみあらむ上と天地開闢の始より下靈魂世界の終迄その外天文地理學術歴史法律等と論じたるもの多し他の宗教の經典と世の開明と共に消へ失せるは關とらず獨り此の聖書のみ猶ほ今日世界殊に文化の國に働きて力あるも人のもの元來神の默示に依るが故と論結せざるを乞

答第四 此の聖書の記録と聖書外の歴史遺傳に憑り又或は今日地中海より堀出るところの遺物に依り益々その神より出でたる真理たるよし明なるなり

答第五 殊に聖書に他宗門經典のなし能とざるものあり即ち豫言是れあり豫言とて事の未だ起らざる前より豫め之を言ふことなりたどへバ舊約聖書よとキリストの世に降り玉ふべきこと十字架に懸り玉ふべきこと神の國即ち福音の世界に廣まることツロバビロンの滅亡等豫言枚擧する暇あらず又新約聖書に至るとエルサレムの滅亡猶太人の世界に散亂すべきこと等その外豫言頗る多し聖書中豫言が夥多ある事は現にイエスキリストの事お開りたる豫言の違はずして應たたるものゝみあてもその數二百有余ありと云へるを以て知るべし(十五問第三の答を見よ)

答第六 聖書が明に天に事を教へ詳にお救の道を論じこと文体の威嚴なる

人心を更改する力ある事其他種々比類なく勝れ全備したること等皆今より二三年前お於て未開の國無學の民に考へ記したるものと思はれず即ち神に默示によるの証なり

答第七 公平無私謙遜正實に心を以て聖書を研究せば聖靈に感化し由り神の言たることを悟るなり

第十三問 豫言の事の起りたる後お記して故お人を欺かんと云たる物に非ざるなり

答 聖書が別々の時代と別々の人々より記るされしこと及び豫言が眞事事の未だ起らざる前にお記されしこと今日疑ふも恥おしき程に明白となれり例へばかのキリストの豫言に協ひて世界に散布居るユダヤ人を視よ彼等の先祖にキリスト降世後未だ百年も立たざる中ユダヤ國を出でまが今に至る迄舊約聖書を神の言なりと信じ又豫言とも信じ今猶お別お

救主の降ることを待てり以て舊約の預言がキリストの前記されまことの眞實なるを知るべし(ユダヤ人の即ちキリスト教の眞理なる証據なれば猶や詳か又聞べし)

第三章

第十四問 イエスキリストの神なるは付如何なる証據ありや

答第一 抑もイエスの處女マリヤの胎まやどり玉ひしよりベツレヘムお生れナザレに住ひ齡三十まえて教を説き奇蹟を行ひ民お棄てられ十字架に上げられ三日目死より蘇り天お昇り玉ひま等皆舊約書なる數百の預言イエスの一身お於て悉く成就したればあり(十三問第五)の答と見よ

答第二 又ガリラヤの如き鄙さ地も居り大工れ子となり而も學をせずして能く彼れの如く奥妙深遠にしてその底測りなきの教を示し又人智の言ふべからざる天の事を云ひ又善く萬人も適する様神の旨を論せしよと教も權

威あるよと等明は神の子あると顯せり

答第三 イエスの身自ら神の子ありと云ひその証とまて奇蹟を行ひ難病を癒し癩病を清め盲を開き跛を立たし惡鬼を逐ひ出し玉へり又水上を歩み或は五ツの餅と二ツの魚とを以て五千人を飽しめ玉へり其外己が十字架よ上り三日目蘇るべきことを預言しエルサレムの滅亡とキリスト後の教會の有様を預言ま實よその事の應せまことなま皆彼の神たるを顯はせり

答第四 又身お一点の罪の有ざりしこと人の罪を直接も免るし玉ひし等皆神よあらざるよりの出來ざることあり乃ち敵なるユダヤ人もイエスの罪を見出そこと能はざるよりイエスが曾て殿を毀て三日目立べしと云ひ或は余のユダヤ人の王ありと云ひ玉ひしことを罪として遂お十字架よ上げしお非ずや然るよ彼等の罪なりと言ひし此語の却てイエスの神たる眞

理を顯そものなり

答第五 イエスの昇天後弟子等ハイエスの神子にして世の救主たる旨と証するに當り身と犠牲とをともも猶厭ひぞ此が爲に殺されしも怨みず悔ひず却て神の榮我榮なりと云ひし舉動を見バイエスが神子ハ相異なきことと知るに足る

第四章

第十五問 汝罪あるか

答 これあり

第十六問 罪どの何を云ふや

答 罪どの人殺姦淫竊盜詐偽等都て言と行ハ顯ハるるものハ固より心の内ハ彼此と惡を思ひ汚穢を望み嫉み怨みなどすることと云へるあり又惡を爲るとよとのみならず善をなさざることとも罪あり

第十七問 何故さる事ハなとべからずして罪と云ふや

答 眞神の命令を破り又その御心ハ背き奉つるればなり

第十八問 神の命令と何れハ在るや

答 聖書と本心ハあるなり

第十九問 神の命令たるを知りて之と破るも罪なりと云へるや

答 人たとひ神と知らざるも法律と知れり即ち心ハ善のなすべく惡のなすべからざるを知るなりそのなすべからざると知て猶ほ之をなすと罪と云ふ

第二十問 罪あるも罰なきか

答 罰なきもの之と罪と云ふべからざる罪ある以上の必ず罰あり善惡を知ることハ己に賞罰を知ることと含ひなり

第二十一問 世に罪ありて罰なきものあると何ぞや惡人が榮に義人が窮と

るあり盗跖の永く生き顔回の蚤逝すると如何

答 此れ未來のあるべき証據の一なり神の賞罰を此世よて終らず後の世よて全く成就するなり(二十八問) 答を見よ

第二十二問 罪を犯せし時その罪たるを知るもその後時経て全く忘れたるものあり忘れたる罪を神と判さ玉ふや否や

答 否忘れたる罪も全く思ひ起すべき時あり此れ聖書も明よして又心理学上よても明あ知らるなり神の前に出るときに此世おて犯せし罪悉く深き出さく隠すこと能わざるべし

第二十三問 神のそのまゝ罪を免るして罰と與へざることをあるや 答 否神の徒お人の罪と免るす能はずその一旦法律を造り之と布告しされを必ず之を履行し賞罰を明よすべき筈なり

第二十四問 罪の悔改よ由て消ゆるものあらざるや

答第一 悔改のみよての既よ犯したる罪科の刑を免るゝ能はず罪を犯し終り余悔ひたり再び之をなさずと定むるの後日の爲お定むるのみ既よ破りたる法律の罰の依然として存るべきあり是れ今日法律上よ於て明ああり

答第二 又其罪よ適ふべき全き悔改をなすものなし悔ゆるよと固より我等おまゝわれども身心の罪ををみな悔ゆるものなし後を顧て一切の罪を悔ゆると云ふともその何の罪たるを知て悔ゆるよ非ざれば眞の悔よ非ず又改むると云ふとも如何なる罪を改むるや盜賊姦淫の如きハ猶や改むべし日々流動する心中の罪よ至てと改むるよとあるあしもし此をしも改むるものあらむ日あらずしてその人全く聖人となるべしその一度犯したる罪ハ再び犯さよとあむれをなり(思念言行總て)一度犯したる罪を再び犯さハ則ち改めたるよ非ざるあり

答第三 それ人罪を犯さんとする時の必ずその罰あることを知りながらな

すことなるべし然らざんば罪の罪ならざ然るは悔改むることを得てその罰の免るゝことを知らば則ち罪を犯すも罰あしと云ふは同ト之をなせば必き罰あり然しかくすれば罰なしとの自語相違ならずや

第二十五問 此世限よて賞罰の全く終る人あるか

答 否一人もなし人自ら考るもこのよよて身は賞罰の全からざるを知る又聖書おも人の審判せらるゝと未來あることを示めざるゝなり

第五章

第二十六問 汝既よ罪あり然れどもその罰を免るゝ法方なきか

答 自らの工夫おて己よ免るゝの法方あり

第二十七問 然らば汝失望あるか

答 否人の自己の力よて罪を救ふ能とざるも幸お天啓の救道ありたゞ斯道おして初て罪の赦免を受くるあり

第二十八問 救の道と何をか云ふや

答 イエスキリストの贖の道是あり神の徒よ人の罪を赦す能のされば恵を以て自ら世お降り人の体を取り人の罰を受け信むるものを悉く救ふ旨と約し玉へり(聖書れ事キリストの事の前章よ出でたり就て見るべし)

第二十九問 キリスト降世以前の人と如何おして救はるゝことを得しや

答 舊約聖書おその事あり聖書お曰く今日地上百萬の衆生の元と神の手おて造られたる二人の先祖より降り來るものよて此の二人罪を犯したるその時神の已お救主を降すべき旨を彼等お教へその後豫言者たちを以て復たその事を告げ玉ひたればキリスト前の人のキリストの來り玉ふべきよとを信トて救はれたるなり(洪水の事ノアの信仰の事アブラハムの事)第三十問 キリスト前と云ひキリスト後と云ひ凡そ更よキリストの事を聞かざるものと如何おして救はるゝや

答 今日おては他は救はるべき方法あるを智能とす只聖書キリストの外
 他は救はるべき道ありしと記したれば彼等の應分の罰を免るべからざる歟
 第三十一問 救道を聞くものあり聞く能ざるものあり神の不公平の處置
 をなし玉ふが如く見ふるよ非ずや

答 神の道を聞くもの神の特別なる恵を得たるなりたとひ聞かざるも不
 公平として罪を神に歸し神を怨むること能はずその自ら皆己が自得の報
 を受くるなればあり又聞くことを得るものも此の己が神前にて義あるも
 故に由ると思ふべからず全く分外の恵に預かるなり猶我等各々アフリカ
 お生れきて日本に生れ犬猫に造られずして人類に造られしが如し只だ
 感謝すべし然れども道を聞くの恵を得てなや信せざればその罪の加ふる
 ことを忘るべからず

第三十二問 赤子の如きの如何

答 悪を知らずしてなす以上の罪なきが故に赤子或は狂癡鈍の如きの罰
 なかるべし然れども罪を知て之を思ひ或は行ふ以上のキリストの救を信
 せずして罰を免るゝことをうるものあり

第三十三問 何が故に世の病氣死苦艱難等人を害するものあるや

答 人の罪あるよ由てかゝる境場は墜落しあり然し此あるよ由て罪あるを
 知り罪あるよ由て此あるを知る罪に此よ由て知れ此れは罪よ由て知らる
 るあり

第三十四問 神の造りたる人罪を犯せし神の人よ罪を犯さするものと云ふ
 べきや

答 人の性の自由なり善を爲すべく又悪を爲すべし然れども善を爲せば賞
 あり悪をなせば罰ある事皆能く直に覺る處あり既し罰を知て罪を犯す
 その責己れに歸せざるを得ず徒に人を毆ち己れの罪よ非ず我手を作りし

神の罪なりと云ふとも本心の理天下の論豈之を許るさんや故に人の罪を犯すの自ら犯すあり神の罪を犯し賜ふは非らざるあり

第三十五問 神の何が故よ善一方人を造らせして自由お作り玉ひしや

答 既よ悪を爲すの神の罪お非せして自らなせる罪なれば我等寧ろ自らを怨むべくして神を怨むべからず神の宇内又同物のみを作くり玉とせ日月星辰なり山川草木なり鳥獸蟲魚なり皆各々異あれり其異なる性お異なるの責任あり故よ受造物のなすべき職分の謹で其責任を全ふするよあり責任を破て後罪を造物主に歸すべきよ非ず且つ自由の性を得て智を磨けを益々進み徳と修むれば逾々高くある人の如きの万物中格別の榮譽と云ふべし然るおその責任を破て後善一方よ造くらるを望む如きの寧ろ恥づべく且つ惡むべしと云ふべし

第三十六問 如何よせむイエスキリストの救よ預ることを得べきや

答 此迄神よ背き罪を犯せしことを悔ひ今より心を改め力を盡して神の御心よ協ふよう思ひ且つ行ひ此迄犯せし罪と此後犯すところの罪とを悉く

イエスキリストよ贖とれんよとを神よ頼むよとなり之を信仰すと云ふ

第三十七問 信仰を問ふ

答 信仰お二ツあり一は智識の信仰とて眞神の存在キリストの贖聖書の眞理なること己の罪あること賞罰の事等を知るとあり一は信任の信仰とて既お知りたる以上之を身よ踐み行ひゆくを云ふあり

第三十八問 如何ある人なれば救はるべきや

答 老若男女貴賤智愚の別なく凡そ信仰あるものハ皆救はるなり又如何やと深き罪あるも一旦悔て信仰の心を起せば皆救はるべきなり

第三十九問 人もし將よ死せんとするよ當り細詳よ教を聞くこと能はざるとき如何おして救はるるや

答 只眞神ただまことのかみを背そむきし罪つみを悔くひキリストの贖あがなひを信まをせば乃すなはち救すくはるべし

第四十問 聖靈せいれいを汚けがすとは如何なる意味いみなるや

答 屢々しばしば道を聞き従したがふべきまを悟さとりながら猶なほ悔くひ改あらためず聖靈せいれいの感化かんかを戴いたきながら故こゝろに逆さかり猶なほ罪つみを犯おし居ゐるときこそ其の末すま最早もちは悔改くわいめんと欲ほつするも悔くひ改あらたむること能あたはず此世このよから刑罰けいばつを受うくるに至いたる恐おそろしき有様ありさまを云いふなり

第四十一問 更生うまれかへるとい如何なる様さまを云へるあるや

答 神かみの靈人たまごの心こころに降くだり信仰しんじやうを起おこさしめ玉たまひしより心新あらたなり暗くらより光ひかりに出いで汚穢けがれより清義きよぎに移うつり愚おろより智ちとなり苦くより樂たのしみとなり愛あいと平和へいと喜よろこびを受うけ以前いぜんとい別べつの人ひととなりし有様ありさまを云へるにて是れ信仰しんじやうの徴しるしあり是れ此世このよにて受うくるの益えきなり

第四十二問 更生うまれかへりたる以上の最早もちはや罪つみを犯おす事ことなきか

答 罪つみを惡にくみ厭いとふと雖いども此世このよおてい全まったく清きよくあるまを能あたはず日々あひだ新あらたま善ぜんと義ぎと清きよと進すすみ世よを去さて後初のちはじめて全まったく清きよくなるなり

第四十三問 一旦いつたん眞まことま生なまれ更かへりたる者ものも再びまた神かみを背そむき終つひに未あ來らいの罰ばつを受うくるものどある恐おそれあるか

答 否いな或あるは一時いつとき穢けがれき罪つみを犯おし本心ほんしんを傷いため聖靈せいれいを愛うれしむるあるも終つひに神かみの惠めぐみより落おちることなし但たゞし信者しんじやの此この世よお在ありて自らみづかり罰ばつを招まねくなり

第四十四問 人死ひとしして復またた還かへりたる事ことなきや如何いかに未あ來らいの事ことをしるや

答 聖書せいしょに默示もくしせられたる基督きりすとの語ことばより且かつつ此この世よに於おいて賞罰しょうばつの全ぜんからざる点てんより考かんがへて明あるのみならず人の靈魂れいこんを考かんがへても亦また知らるるあり(二十二問お出づ)

第六章

第四十五問 靈魂れいこんを問ふ

答第一 靈魂の聖書は神の像を省せて造られたりとあれば神と相似たるものなり即ち目も見へき耳も聞へず形体あきものなれどもその働きあるも由てその存在とると知るあり猶や萬物も顯ゆると神の働きと觀て神あることを知るが如し

答第二 それ靈魂の手も非ず足も非ず將た腦も非ずろは手足切らるゝ事あるも靈魂の欠けず又腦瘦せるも靈魂の瘦せず加之らず人の身体の數年を経て骨肉頭腦悉くの一變して新なるも靈魂の更なる事あき同一にて有つなり是れ肉体と靈魂と別おして而も体死するも靈魂の變らざる証なり

答第三 善惡と知り道理を探り智識を進め言語を通じ神を拜する等皆獨り靈魂の働きよして肉体の働と思われき又智徳の進歩は際限なきと世の不満足おして人の望の盡さざるを觀るも靈魂の此世限おて終ると思ふべ

からせ

答第四 靈魂の他ならせ即ち吾なり身体の我身体よして猶ほ我衣と云へる

如し主人今身体は家にお寓居を死するとい主人の轉宅するものなり

答第五 心理上全く心のみの働きあるも由て知るなり即ち夢の知らせの如き又暈遊の如きよとなり

第四十六問 信者之死て後審判の日迄の如何ある有様よあるべきや

答 信者の死するときは肉体の墓に入るも靈魂と「パラダイス」と云へる天よ上り喜び樂て己が復活と神の審判を待てるなり

第四十七問 不信者の死後を問ふ

答 不信者の靈魂の陰府と云へる處におき苦み憂て身の復活と審判とを待てるなり

第四十八問 復活と如何なる事なるや

答 復活と不信者ともあることにて所謂世の終イエスキリストが再び天より降り玉ふと靈魂は靈體と云へる血肉なき榮の体を與へらるゝを云ふ

第四十九問 神の審判とい如何

答 神が世の終りお於て靈體となりたる古今万國の人民を悉くその前集め曾てろの者お世おて爲したる善惡の賞罰をあし玉ふを云ふあり

第五十問 審判後信者不信者の有様い如何

答 信者と永遠の喜と樂と満ち神の御心の隨意何事をもあしその榮天の使の如くなるべし之を永生と云ふ不信者の罪お定められ限なく神の怒と罰との下お住み心苦めらるゝなり之を永死と云ふ但し信者の喜及び不信者の苦より孰も輕重あるあり

第五十一問 審判の日世の終の來るい何日あるや

答 神の外天の使も誰も知るよと能いおその時の吾人お知れざるい蓋し吾人をして常又情おとなく恒又儆醒して預備をなさしめんためあり

第七章

第五十二問 汝既救はれたる者おて今死するとも「バラダイス」お行くべきものと信おるや

答 固より然り

第五十三問 如何おして救はれおることを知るや

答 余キリストを信おすれをなりそのキリストを信おせい皆悉く救はるべしとの神の約束あるよ由る

第五十四問 「バプテスマ」を受おされお救はるゝこと能はざるか

答 未だ「バプテスマ」を受けざるも一日も早く必お「バプテスマ」を受おくべしと心と定めたるものい其信仰より救はるゝなり「バプテスマ」おたお教會

お入るの式よして既^も救^すはれたるを表^{あら}とともものあるれみ但^{たゞ}「バプテスマ」
と主^{しゅ}イエスキリストの設^まり玉^{たま}ひし大切^{たいせつ}なる大禮^{たいらい}なれば之^{これ}を輕^{かろ}じ受^うりざる
よとと罪^{つみ}なり

第五十五問 既^もお神^{かみ}又^{また}従^{したが}たる以上^{いじやう}萬事^{ばんじ}萬物^{ばんぶつ}何^{なに}を目的^{もくてき}としてあすべきや

答 萬事^{ばんじ}神^{かみ}の榮^{さか}えと顯^{あら}すよあり即^{すなは}ち士^し農^{のう}工^{こう}商^{しょう}何^{なに}事^{ごと}を爲^なすよも神^{かみ}の御^ご心^{こころ}よ協^あふ
よとと勉^{つと}め苦^くむとさよ祈^{いのり}禱^{たう}し喜^{よろこ}ぶとさよ感^{かん}謝^{しゃ}し食^{くら}ふよも寐^いるどさよも神^{かみ}
の惠^{めぐみ}と義^ぎと智^ちと力^{ちから}と總^{すべ}ての德^{とく}を讚^{さん}稱^{せう}し奉^{ほう}るよあり

第五十六問 聖書^{せいしょ}なる神^{かみ}の命^{めい}令^{れい}を約^{やく}めて言^いと如何^{いか}ある誠^{まこと}となるや

答 第一^{だいいち}心^{こころ}を盡^{つく}し精^{せい}神^{しん}を盡^{つく}し意^いと盡^{つく}して主^{しゅ}たる神^{かみ}を愛^{あい}する事^{こと}と第二^{だいに}已^おれ
如^{ごと}く隣^{となり}を愛^{あい}することの二^に誠^{まこと}なり而^{しか}して二^に誠^{まこと}を合^あすれば即^{すなは}ち愛^{あい}の一^{ひと}となるな
り

第五十七問 汝^な再^{また}び神^{かみ}又^{また}背^{そむ}て惡魔^{あくま}又^{また}従^{したが}ふよとなきを誓^{ちか}ふや

答 たとひ世^よの爲^{ため}よ疾^はまれ嘲^{あざ}けられ迫^は害^{がい}せられ將^はた殺^{ころ}さるよとも神^{かみ}お背^{そむ}か
ざるよとを聖^{せい}靈^{れい}の救^{たす}けよ由^{よし}て誓^{ちか}ふあり

第五十八問 祈^{いのり}禱^{たう}を問^とふ

答 言^{げん}禱^{たう}默^{もく}禱^{たう}の差^さわれども何^{なに}れも救^{たす}主^{しゅ}イエス^スの名^なお依^よて神^{かみ}の德^{とく}を稱^た讚^{さん}し愛^{あい}
惠^{めぐみ}を感^{かん}謝^{しゃ}し罪^{つみ}の救^{たす}免^{めん}を願^{ねが}ひ聖^{せい}靈^{れい}の教^{くわ}導^{だう}救^{たす}助^{すけ}を仰^{あや}ぐことを含^まむあり又^{また}た
時^{とき}を定^{さだ}めて爲^なすのみならず事^{こと}毎^{ごと}よ祈^{いのり}り不^{たへ}絶^{ぜつ}心^{こころ}よ祈^{いのり}禱^{たう}の念^{ねん}あるべきなり

第五十九問 安^{あん}息^{そく}日^{にち}と問^とふ

答 安^{あん}息^{そく}日^{にち}とい一^{ひと}週^{まわ}の始^はめの日^ひおして神^{かみ}が人^{にん}間^{げん}の爲^{ため}よ定^{さだ}め玉^{たま}ひし日^ひなり此^{この}
日^ひおハ平^{へい}常^{じょう}の職^{しやく}業^{ぎやく}と平^{へい}常^{じょう}の戯^{あそ}遊^びとを休^{やす}め特^{とく}別^{べつ}お神^{かみ}の事^{こと}救^{たす}の事^{こと}罪^{つみ}の事^{こと}傳^{でん}道^{だう}
の事^{こと}等^らを考^{かん}へ聖^{せい}書^{しょ}を讀^よみ教^{きやう}説^{せつ}を聞^きき専^{せん}ら心^{こころ}と清^{きよ}むるの日^ひなり神^{かみ}ハ此^{この}日^ひ
を守^{まも}るものと祝^{しゆく}して此^{この}世^よよて惠^{めぐみ}と與^{あた}ふべしと約^{やく}束^{そく}し玉^{たま}へり

第六十問 晚^{ばん}餐^{さん}を問^とふ

答 晚餐との主イエスが十字架に就き玉ふ前夜に當て設け玉ひし大禮なり
 かの餅の世の罪を贖はんとしてイエスが裂き玉ひし肉を表とし葡萄酒を流
 し玉ひし血を表はすものにして此大禮と世の終迄教會を行ふべき者なり
 第六十一問 如何なる心得にて此大禮を預るべきや

答 罪を悔ひ心を清くし神の大恩と感謝するの心を以て此の大禮を預り餅
 を食ひ葡萄酒を飲みその時主の苦と恵とを起念すべし若し夫れ猥な此式
 と守らば此の世にて罰を受くるあり

第六十二問 基督教會の中にて天主教グリキ教ありプロテスタント教の
 區別あり何れの教會に入らざるを眞のイエスキリストの救を預るべきもの
 なるや

答 何れの教會までも聊か私の心を混せむ全く身とキリストイエスに獻げ
 義と清と天の國を望み神の榮と顯すを目的とするものと昔救はるるなり

第六十三問 信者相互の交際の如何

答 信者の主ありて一体たれば相輔け相勸め互に足を洗ふ如く謙遜り相
 親み相愛し決して隔て嫌ふ心あるべからず是れ主の新き誠あり

第六十四問 未信者との交際の如何

答 未信者をも兄弟と思ひ愛し交り一人までも多く救ひ神を導びくことを
 勉むべし然れども神を背く交り至ては善惡相和する能とされば斷乎とし
 て交るべからず

第六十五問 信者教會を盡す義務を問ふ

答 信者の教會を維持するために出金し常に注意して教會を駁雜物と誤謬
 を混することある様相勉め若し説の合とざるもの或は稗子と思はるる人
 あるども教會を離れざるその教會を改良清潔にすることを勉むべし

第六十六問 天國を問ふ

答 天國も二あり一ツと信者が此の世とさりて後住む處を云ひ一ツと此世
もて基督教會をさせるなり

第六十七問 此世なる天國と遂ふ如何なりゆくべきや

答 神の豫言と今日の有様と因り慥に知る矣此世の天國と益々大ひよる
り悪魔と世の障害物を排除して遂に日本支那朝鮮の如き隅々に至る迄も
廣がりゆきて神の榮と福音の水の處とまで在らざることなきが如く天下
中も耀き渡るべし我儕信徒の義務は天國の此の世も弘まる様神祈り且
働くもあるなりアーメン

信仰問答畢

明治十八年一月九日御届
同三十日出版

(定價五錢)

著述人

兵庫縣士族

森本介石

大坂府北區宗是町二十七番地

出版人

大坂府士族

今村謙吉

大坂府西區土佐堀三丁目八番地

賣捌所

- 大坂土佐堀三丁目 福音社
- 同 京町堀四丁目 福音舎
- 神戸榮町三丁目 福音舎
- 西京寺町通夷川下ル 福音堂
- 備中高梁本町 柴原十字閣
- 伊豫今治米屋町 八木治作

東 京 圖 書 館

新書門

一五

部 類 函 架 號 冊

0550

特50
966

信仰問答

1

国立国会図書館

020801-000-9

特50-966

信仰問答 第1

森本 介石/編

M1.8

ABI-0627

